

2005C

研究テーマ名	自動運転の時代と交通体系:人間、AI、交通社会
背景と目的	2019 年度は、自動運転の公道実用化を視野に入れて、地方自治体の取組みの視察と支援、関連する制度提案をし、それら国内動向を国際会議で報告した。レベル 3 の自動運転技術への取組等、本プロジェクトでの議論状況は、ITS World でも大いに注目された。国際シンポでは、英独の専門家と共に議論を更に深化させた。2020 年度は、日本の制度の抜本の変更が見込まれる。そこで、本プロジェクトの知見を国内外で更に浸透させ、新たな交通体系（免許制度の改正、法的責任の適切な分配、保険制度の整備等）に係る本プロジェクトの知見を国内外に発信する。
期待される成果	レベル 4 の自動運転技術の公道利用に必要な条件の確認（レベル 3 については昨年度の法改正で一応の対応がなされた。レベル 3 は、レベル 4 以上とレベル 2 以下の複合体であるが、レベル 4 について抜本的な法改正が検討されており、IATSS として、レベル 4 の安全性確保につき、意見公表が是非とも必要である）具体的には、レベル 4 で ODD を走行中の車両による事故を念頭におき、制度的対応（免許制度等道交法上の対処、民事、刑事責任、保険制度の適用範囲）を更に精密に検討する。レベル 4 で ODD を走行中の車両による事故が生じうることを前提として、自動運転車の利用に係る社会的受容性を、地域、被験者の属性毎に調査し、制度の裏付けとなる最新の市民意識を把握する。その際には、地方自治体との共同調査も行う。TS 国際会議、英独仏の専門家を招聘しての国際シンポにて、本研究の知見を公表する。国際シンポの成果は、日本語と英語にて公表する。3 年間の研究成果を日本語論文にまとめて政府機関や地方自治体に提供すると共に、英語論文にまとめて国連、WP1,WP29 等に提出する。